

寺報

No.606

平成30年2月

蓮華寺
發行

御聖訓

妙法蓮華經と申すは蓮に譬られ
て候。天上には摩訶曼陀羅華、人
間には桜の花、此等のはめでたき花
なれども此等の花をば法華經の譬
には仏取給ふ事なし。一切の花の
中に取分て此花を
法華經に譬へさせ
給事は其故候なり。

『上野尼御前御返事』



(解説)

『妙法蓮華經』は蓮華の花に譬えられます。

花はどの花も美しく、天上界にはマンダラ華、人間界には桜の花があります。

これらも皆めでたい花ではありますが、お釈迦様は法華經の譬えには用いる事はしませんでした。

すべての花の中で、特に蓮華だけを取られたのには理由があるのです。

泥の中に身を沈めながらも、汚泥に染まる事なく、

清浄に咲き誇る蓮華、それはあたかもこの汚れた世の中で仏をめざす、我々の生き方そのものを示されたからです。

つまり、蓮華は仏教の象徴であり、花の中の花、大王の花といえるのです。

同様に、お経の中のお経は法華經であり、それが大王のお経といわれるわけです。

大王經だからこそ、『妙法蓮華經』と名付けられたのです。

節分会のお知らせ 二月三日(土)

午後六時開始

男性大厄

数え二十五歳	平成六年生れ
数え四十二歳	昭和五十二年生れ

女性大厄

数え十 九歳	平成十二年生れ
数え三十三歳	昭和六十一年生れ

大正十一年生れ

年男・年女
(戌年)

昭和九年・二十一年・三十三年・ 四十五年・五十七年生れ
平成六年・十八年・三十年生れ

その他

・前厄・後厄(厄年の前後)

- ・還暦(六十一歳)・古稀(七十歳)
 - ・喜寿(七十七歳)・傘寿(八十歳)
 - ・米寿(八十八歳)・卒寿(九十歳)
 - ・白寿(九十九歳)など
- いずれも数え年です。

・今年ご祈祷希望者はどなたでも

蓮華寺では、本年大厄(前

厄・後厄も含む)に当りま

す男女、また干支の戌【い

ぬ】年に当たります年男・年

女、更に今年特別にご祈祷

を希望する方々に、まず厄

払いのご祈祷とお加持を受

けて戴き、次に豆まき(落

花生)、最後に絵馬と厄除

けのお札、お土産をお渡し致します。

この時、お渡しする「絵馬」は、その場か後でも差し

支えありませんが、住所・氏名・数え年、そして一年

間の願い事を書いてお寺にお納め下さい。

お寺ではこれを一年間、大本堂の御寶前に奉納し毎朝

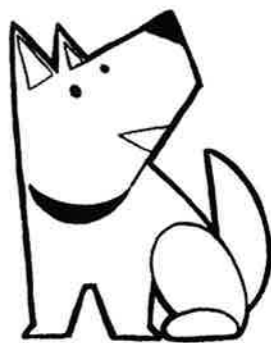
祈願のお経をお上げします。

また、厄除けのお札はご本人が寝ている部屋の柱の上

の方に、一年間貼って下さい。

向きは、寝ている頭の方向が最もよろしいでしょう。

必ずお守り下さい。



②なお、本人が来られない場合は、代理の方か、または帯・ベルト・衣類等本人の身に着ける物をお預かりになり、終了後お受け取りにきて下さい。

★厄払い・三千円

- ◎豆まき◎祈願読上げ
- ◎お加持◎厄札◎絵馬
- ◎福豆のお土産等

★一般祈願・千円

円(◎節分札◎祈願読上げ)
【随時受付中】

厄払い

私達が一生の中で、特に災難に遭う恐れが多く、慎しみたい年を『厄年』といいます。

男性は二十五歳と四十二歳、女性は十九歳と三十三歳の、いずれも数え年を『大厄』といい、またその前後の年を『前厄』『後厄』といひまして、この三年間を慎しむ風習が昔からあります。

厄年に当る人が、神仏の前で厄災の起こらないようにと祈念する行事を「厄払い」、また除厄祈祷といひます。

日蓮大聖人は、法華経を信仰する事で「三十三の厄、転じて三十三の幸いとならせ給うべし」と教えられ、昔から信者の厄年の男女は、法華経・お題目の力によって除厄得幸を祈ってききました。

当山では、厄年以外の今年【戌年】の『年男・年女』また『還暦』『古稀』『喜寿』『傘寿』『米寿』『卒寿』『白寿』等、更にその年の除災を願う方々は、どなたでもご祈祷を受ける事が出来ます。

また一般の参拝の方々は、除厄された方よりまかれる豆を拾い、今年の福を分けてもらって下さい。お願い致します。

節分と豆まき

「節分」とは文字通り、季節の分かれる時という意味です。

ですから本来は立春・立夏・立秋・立冬に移る時を指します。

しかし、旧暦を用いていた時代では、年越しと重なる立春の日が特に重んじられ、いつの間にか立春の前日だけを「節分」というようになったのです。(続く)

この日に行われる行事の事を『追儼会』といいます。追儼とは「鬼やらい」「厄払い」「厄落とし」ともいいます。まして、我々に害をなし、苦しめる悪霊・疫病・厄神を追い払い、そして幸せをもたらす守護霊・福神・善神を招き入れる行事であります。

また「豆撒き」も中国の後漢書（千七百年以上の前に書かれた書）に『昔より節分に大豆打つ事始まれり』と書かれた文に基づき、我が国でも足利時代後の應永年間（一三九四〜一四二七）頃より宮中で実施されていたものであります。

それが、時代と共に庶民にも取り入れられるようになり、『鬼は外、福は内』というかけ声の元、一般に普及してきたようです。

そして、大豆には『時季を退け、また払う』との意味があり、また豆も魔目（まめ）摩滅（まめつ）に通じるといわれ、豆を投げれば鬼の目をつぶす事が出来、それが魔を滅する事に繋がるとされたのでした。



『御守護』札を

貼付しましょう！

当山で毎年年末に用意致します『御守護札』は、蓮華寺の檀家である証明と、その家をご守護する為のお札ですので、必ず玄関に貼付するようにして下さい。まだ檀家の中でも知らないで、貼付していない家庭も沢山あります。

どうか、今年度より貼付するようお願い致します。



（五百円）【販売中】

また、その年に家でご不幸などがあつた場合でも、御札・御幣等は必ず毎年取り替えるようにして下さい。

☆ 霊 断

檀信徒の皆様で、日頃から何か困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。

日蓮宗に伝わる秘法『九識霊断法』にて当山僧侶が解決、ご指導致します。

なお、宗旨宗派は問いません。 ☎776-5840

【相談料は原則として三千元となります】

『星 祭』お申込みのお知らせ

当山では毎年三月に行われます『星祭』の期間中皆様のご家族のお名前と数え年を記入しました「星」（剣守札）をお祀りして、その年の善星が皆来し、悪星が退散して、一年間無事安泰でありますようにと祈願致します。

その時に、皆様がお受けになります「星」のお申込みは、事務所に置いてあります専用の用紙に、ご家族のお名前・性別・数え年・住所等をお書きの上、お早めにお申込み下さい。

※剣守札（星）【一体・・・二百円】



どうか、檀信徒の皆様は、是非とも毎年この「星」（剣守札）をお申込み戴き、そして、いまだ知らない方がおりましたら、お勧めになりますようにお願い致します。

二月十三日（火）より受付します。

永代供養堂

当山会館の三階にあります「永代供養堂」は、今後後を見る事が出来ない仏様をご供養する所です。

まず、当山指定のお位牌の正面に『ご戒名』または『先祖代々之諸精霊』と彫り、裏面には施主名を彫り御寶前にお祀りします。

そして、蓮華寺のお寺が続く限り、永遠にご供養して参ります。

ここでは、毎朝僧侶がお経を上げ、ご命日にはご戒名を読み上げますし、また先祖代々のご供養はお申込みのあつた日に読み上げをしています。

永代供養塔

当山境内にあります「永代供養塔」は、今後、後を見る事が出来ない『個人のお骨』また『先祖代々のお骨』を埋骨し、永代に渡りご供養しております。

ここは、毎月僧侶がお経を上げ、ご供養を欠かす事はありません。

（注）どちらも詳細は、当山事務所までご相談下さい。

☎017-776-5840

盛運祈願会へお参りしましょう

毎月ついたち午後一時からの、お守り（俱生靈神符）を戴く行事を「盛運祈願会」といいます。

皆様の中には、自らが参拝してお守りを戴く方、親戚や友人に頼んで戴く方、また直接お寺の事務所でお求めの方と、様々な方法でお守りを戴いている事と思います。

しかし、ついたちの日は仕事や諸用で忙しいとか、またご遠方の方は仕方ありませんが、時間にいくらか余裕のある方は、是非とも盛運祈願会に参拝してお守りを戴いて下さい。

そして、我々はただお守りを戴くだけではなく、御寶前に於きまして御本尊様・日蓮大聖人様・諸天善神・俱生靈神様に、

『二ヶ月間どうも有り難うございました。また、今月もよろしくお願い致します。』と、感謝する事が大切なのです。

更に、我々が知らず知らずの間に作って来た罪を、自らが懺悔滅罪し、一心に盛運を祈願して、俱生靈神の守護をより強くする事も忘れてはいけません。

『位牌壇』募集中！

★『位牌壇』は分割が可能です。

期間は三年間でお支払い回数はお相談に応じます。

★なお、現在は特席・一席・二席・三席があいいますので、場所はお寺にお尋ね下さい。

★下の席から上席に上がる場合は、その差額を納めて戴きます。

★当山では、毎朝必ず位牌堂の正面で「各家先祖代々の諸精霊」をお題目でご回向していますので、皆様の御先祖様や仏様は代々に渡り護られています。

★また御命日の日に旅行や諸用などでご不在でも、ご予約戴ければ、『位牌壇』の前に追膳をお上げしますし、お経も唱えさせて戴きます。

★特に青森では冬期間、お墓参りが出来ませんので、『位牌壇』がありますと、常にお寺にお参りが出来ます。

★やむなくご親戚やご友人に譲渡する場合も、お寺には必ずご連絡下さい。



身に着ける「お守り」

当山では、次の三つのお守りを、全檀信徒の皆様にも必ず身に着けて戴きますようお願いしています。

霊神符



生命に係わる事故や災難から身を守るお守りで、必ず身に着けて、毎月交換して戴きます。

五段のお守り



我々の計り知れない死霊・生霊・野狐・厄神・呪詛の五段の邪気から身を守るお守りで、年に一回交換します。

カード型ご本尊



日蓮宗の大曼荼羅御本尊を小型化したお守りで、右の二つのお守りを、更に強くお護りして戴く為に一緒に身に着け、年に一回交換します。

『聖徒団会員』募集！

毎月ついたちの「盛運祈願会」の中で、住職上人が各会員の『家内安全』をご祈願致します。

その他、大本堂御寶前のお花、皆様にお配りする新聞『聖徒タイムズ』、寺報等の援助などに活用します。

会費・・・年額二、四〇〇円（月二百円）

『提灯』の募集！

当山で「お正月」「鬼子母神大祭」「御会式」に下げます『提灯』（トローラー）を限定で三個募集致します。作成価格は八千円、年間の管理費が二千円となりますので、初年度のみ計一万円となります。

霊神符を持ちましょう！

最近は何いもよらない災害や事故、事件が多発してたくさんの方々巻き込まれています。皆様も「私だけは大丈夫」というお考えはお止めになりまして、どうぞ素直に毎月、霊神符（お守り）を肌身離さずお持ちになります様お願い致します。

二月の行事

一 日(木) 盛運祈願会 午後一時より

- ・ 毎月のお守り【霊神符】の交換の日です。
- ・ 自ら進んでお勤めに参加しましょう。
- ・ 聖典(お経本)と数珠は必ずご持参下さい。



一 日(木) 甲子きのね【大黒様の日】 朝のお勤め中

寒修行【唱題行】二日(金)まで連日

午後七時より八時まで…小本堂にて

三 日(土) 節分会 午後六時より

十三日(火) 日蓮大聖人の御命日 午後一時より

- ・ お経 如来神力品第二十一(訓読・日本語読み)
- ・ お経 如来寿量品第十六(真読・漢字読み)
- ・ 大聖人様への御報恩を忘れずに参拝し、ご一緒に
お経とお題目を唱えましょう。

☆奉仕のお知らせ

三 日(土) 「節分会」のお手伝いと後片付け

教宣部男女・午後三時より

* 今月は、「節分会」の大事業がありますので、お手伝いの方が沢山必要です。

どうか皆様のご協力をよろしくお願い致します。

① 一般檀信徒の方でご奉仕出来る方は、当日時間までご集合下さい。

◎ 奉仕部長・山田兼補 ◎ 伝道部長・小野正春

◎ 教宣部長・杉淵昌三

檀信徒研修会は

三月までお休みです

『十三日のお勤め』

に参拝しましょう!

② 十三日の『大聖人様の御命日のお勤め』用に、お経練習の【カセットテープ・CD・お経本】を販売しています。(事務所まで)